

学校休業時で不足した授業時間の解消策について

質疑のポイント

- ☑ 市立小・中学校において生じた授業時間の不足数は200時間を超えているが、夏休みの短縮、7時間授業、学校行事の見直し等で不足数の解消は可能か。
- ☑ 学習指導員やスクールサポートスタッフの追加配置により、学力保障は可能か。
- ☑ 来年度に実施される神戸市立高校の入試問題の範囲を縮小すべきでないか。

○ 長田教育長：まず、夏季休業中の授業を設定するに当たり、熱中症リスクを一番に考慮した。特に小学校の登下校には危険性が伴うので7月下旬については、小学校の授業の設定は見送ることとした。時間割の新設、短時間授業の設定、あるいは学校行事の内容変更等により生じる時間を授業に充てることにより、文部科学省が定める標準授業時数以上の時間を確保していく。追加配置をする学習指導員の活用なども含め、児童個々の学習状況を把握をし、その習熟度に応じたきめ細かな指導を行うなど、子供たちの学びの保障に最大限の努力をしていきたい。また、市立高校の入試については、『兵庫県公立高等学校入学者選抜要項』に基づいて実施をしている。出題範囲・内容・方法についての特定の入学志願者が不利にならないよう適切な工夫を講じることとされている。文部科学省の通知の趣旨を踏まえ、兵庫県教育委員会に対して神戸市の中学3年生の学習状況を丁寧に伝えるなど、志願者が安心して受験に臨めるように、県教委とも情報共有や協議を行って対応していきたい。



○ いさやま：1年をかけて学習していく内容を短期間ですることになり、時数確保だけでなく、学力の定着のためによりきめ細かな取組も必要である。授業内容の一部を次年度に繰り越すこともできるという文科省通知もあるので、柔軟な対応をお願いしたい。入試に関しては、神戸市は休校期間が長かったので受験生に寄り添った対応をお願いしたい。（残念ながら、7月8日に県教委から範囲縮小しない旨の通知あり）



■ 議員報酬2割を削減する条例を提出するも継続審議！

「神戸市市会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の特例に関する条例」

いわゆる『神戸市会議員の報酬2割を1年間カット』する内容の条例を、

私、いさやま大介を含めた14名が提案議員となり議案として提出しました。

財源約1億5600万円を捻出し、「新型コロナウイルス対策」として活用することを目的とするためです。

付託された総務財政委員会では、「結論を出すべきではない」という意見が過半数を超え、残念ながらこの会期中に議案を通せず、「継続審議」となります。

兵庫県、西宮市、芦屋市、明石市など県内7割にあたる30議会が、6月末の時点で議会費（議員報酬、期末手当、政務活動費など）の削減に取り組んでいる状況下において、感染確認が最も多い神戸市の本議会において結論が先送りになったことは残念でなりません。引き続き議論を進めて参ります。